

1) 設問通り。
2) 数の大きさが轉っているような小さなサイズの数に変えてやる。
3)

a) はかりの実体験を思い描いてヒントにした等価化操作。
天秤はかりは数的な論理操作を体験する有効な手段である。
b) 補教や“加減図”虫食い算などへの準備体験。



Date /
Note /
評

[口頭問題]

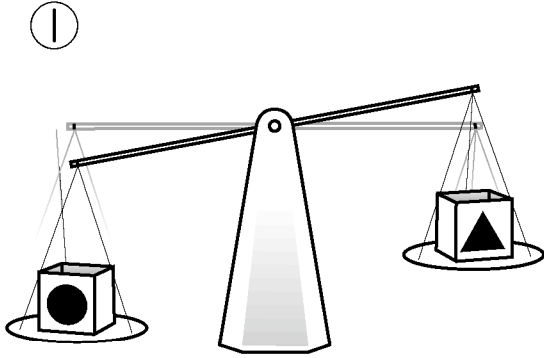
秤の操作を思い描き、各文章題を考える。

「●と▲の箱の中には、ビー玉(だけ)が入っています。」と前提する。

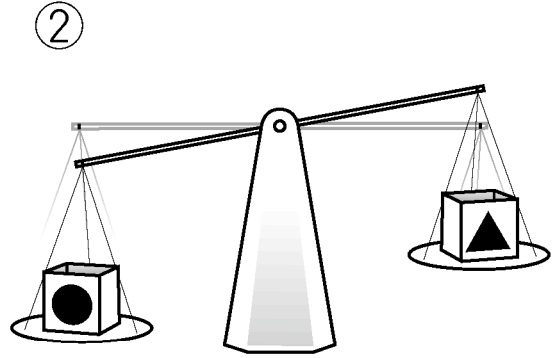
いまから きくことに
えをみてこたえてね。



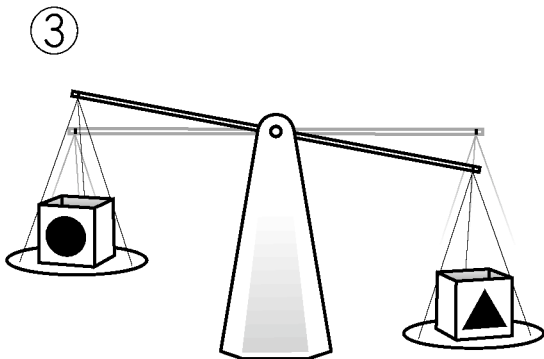
① ●の箱には、ビー玉が10コ、入っています。▲の箱には、ビー玉が7コ、入っています。秤が釣り合うようにするには、どちらにどれだけビー玉を足したらいいでしょう。 []



② ●の箱には、ビー玉が8コ、入っています。▲の箱には、ビー玉が4コ、入っています。秤が釣り合うようにするには、どちらからどれだけビー玉を取ったらいいでしょう。 []



③ ▲の箱には、ビー玉が13コ、入っています。▲の箱からビー玉が4コ取ったら、秤が釣り合いました。●の箱にはビー玉が何コ入っていたのでしょうか。 []



④ ●の箱には、ビー玉が11コ、入っています。▲の箱にビー玉が5コ入れたら、秤が釣り合いました。▲の箱にはビー玉は何コ入っていたのでしょうか。 []

